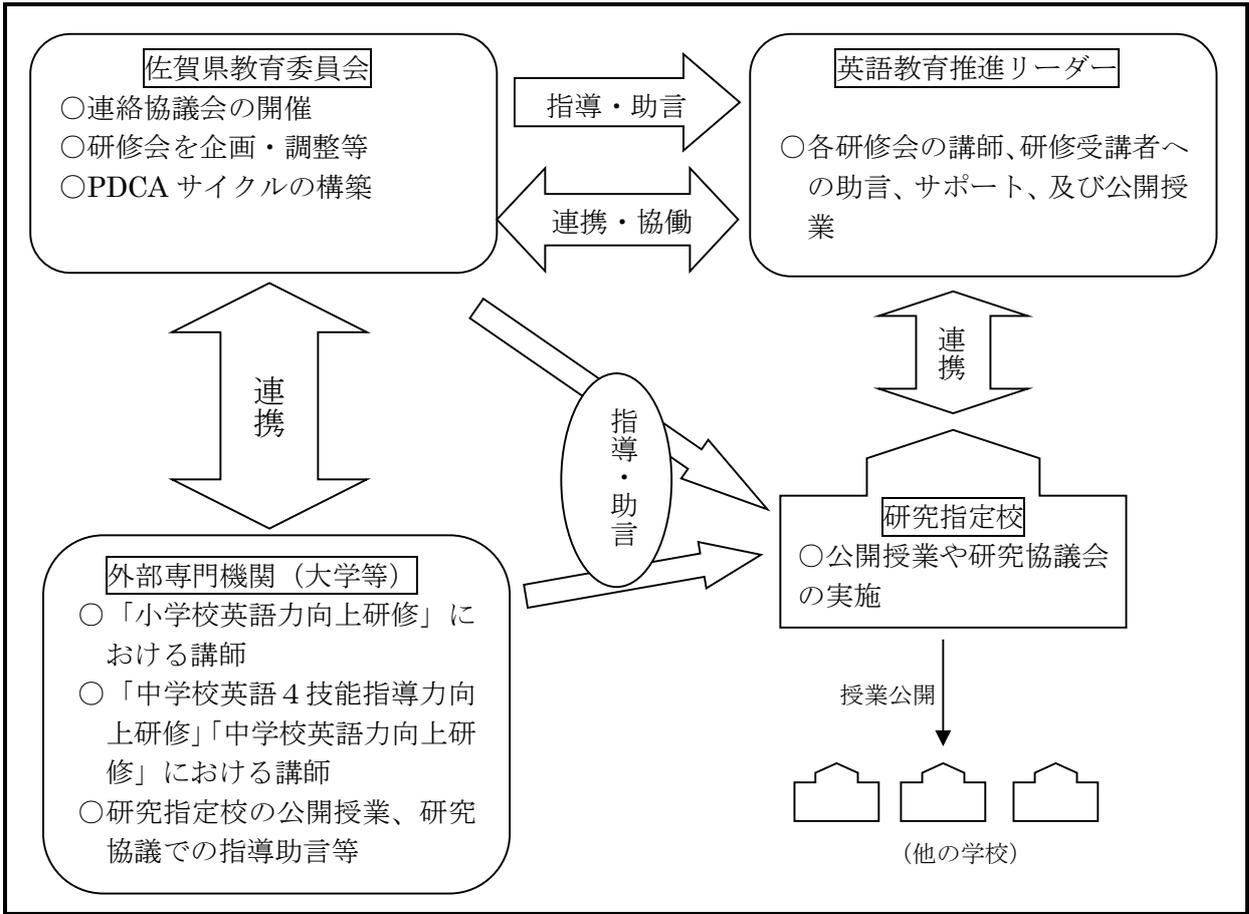


佐賀県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

英語教育実施状況調査の結果及び目標値

「令和元年度英語教育実施状況調査」結果を過去の数値と比較すると、高等学校においては、指標内容②、④、⑤、⑥で、中学校においては①～③で若干の改善が見られた。しかし、実際に県の目標値を達成できなかった指標もあり、小学校については相応の英語力を有する教員が不足している。高等学校及び中学校の生徒の英語力については、第3期教育振興基本計画に提示されている目標である50%を達成しておらず、今後更に生徒の英語力を高めるための手立てを行う必要がある。

今後については、引き続き教員の指導力及び英語力向上に資する研修を継続するとともに、CAN-DO リストの見直し及びそれに基づいた指導やPDCA サイクル構築を強く促す必要がある。

(高等学校 ー 目標管理 ①～⑧)

No.	指標内容	2018	2019		2020	2021	2022
		達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合	87%	90%	87%	93%	95%	95%
②	求められる英語力を有する生徒の割合	37%	40%	38%	45%	48%	50%
③	学習到達目標の整備状況	設定	100%	100%	100%	100%	100%
		公表	83%	100%	91%	100%	100%
		達成状況の把握	94%	100%	78%	100%	100%
④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合	60%	70%	63%	70%	70%	70%
⑤	パフォーマンステストの実施状況 スピーキングテスト(回)	コミュ英Ⅰ	3	3	3.8	3	3
		コミュ英Ⅱ	2	3	2.9	3	3
		コミュ英Ⅲ	0.5	2	2	2	2
		英語表現Ⅰ	1.1	3	3.2	3	3
		英語表現Ⅱ	0.5	2	2	2	2
	パフォーマンステストの実施状況 ライティングテスト(回)	コミュ英Ⅰ	2.1	3	3.2	3	3
		コミュ英Ⅱ	2.2	3	3.8	3	3
		コミュ英Ⅲ	0.7	2	1.8	2	2
		英語表現Ⅰ	2.4	3	3.2	3	3
		英語表現Ⅱ	2	3	3.9	3	3
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況	57%	70%	63%	70%	70%	70%
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	5	9	9	5	5	5
	研修受講者数	106	115	179	155	155	155

(中学校 ー 目標管理 ①～⑧)

No.	指標内容	2018	2019		2020	2021	2022
		達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合	38%	40%	40%	45%	50%	60%
②	求められる英語力を有する生徒の割合	32%	35%	37%	40%	45%	50%
③	学習到達目標の整備状況	設定	100%	100%	100%	100%	100%
		公表	10%	70%	19%	80%	90%
		達成状況の把握	42%	70%	50%	80%	90%
④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合	75%	80%	71%	80%	80%	80%
⑤	パフォーマンステストの実施状況スピーキングテスト(回)	3.1	3	3.3	3	3	3
	パフォーマンステストの実施状況ライティングテスト(回)	3	3	2.7	3	3	3
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況	67%	70%	67%	80%	90%	100%
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	6	5	5	3	3	3
	研修受講者数	290	260	211	200	200	200

(小学校 ー 目標管理 ①～③、専科)

No.	指標内容	2018	2019		2020	2021	2022
		達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
①	学習到達目標の整備状況	設定			50%	100%	100%
		公表			30%	40%	50%
		達成状況の把握			30%	40%	50%
②	小学校教員に対する研修実施回数	7	7	7	5	5	5
③	研修受講者数	685	500	332	200	200	200

No.	指標内容	2020	2021	2022	2023	2024	2025
専科	新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合	10%	10%	15%	20%	35%	50%

2019年度までに実施した手立ての成果・課題及び今後の取組等

◎実施した手立て

- ◆「小学校教員英語指導力向上研修」
- ◆「小学校伝達講習フォローアップ研修会」
- ◆「佐賀大学英語力向上研修」
 - ・中高英語教員対象
 - ・佐賀大学での2日間の研修（8月～9月）
 - ・TOEIC IP テスト受験補助（中高英語教員対象）
- ◆「英語教育推進リーダーによる伝達講習」
 - ・小中高教員対象
 - ・教育センターでの3日間の研修
- ◆「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」における研修協力校
英語教育推進リーダーの在籍校を研修協力校に指定し、中央研修の内容を実践した授業公開を行った。
成果の波及や周知については、公開授業やHPで行った。
- ◆「県の研究指定校の研究公開」
公開授業により、研究内容を県内に周知した。
- ◆「教科指導法改善研究（高校）」
 - ・5日間の研修、研究委員による公開授業、及び報告書による成果普及

◎手立ての成果①（児童・生徒の変容等）

【小学校】

- ・外国語活動の授業に主体的に取り組み、コミュニケーションを積極的に行おうとしたり、言語活動を通して友達のよさや様々な異なる文化のよさに気づいたりする児童が増加している。

【中学校】

- ・自分の考えを即興的に論理立てて伝えることができるようになってきている。
- ・国内外で実施される英語に関する研修に積極的に参加する生徒が増加している。

【高等学校】

- ・外部検定試験の受検者数が増加している。
- ・プレゼンテーションなどの発表において、堂々と自分の意見を話す生徒が増加している。

◎手立ての成果②（教師の変容等）

【小学校】

- ・研修会等における伝達内容を校内で共有し、様々な指導法を工夫して効果的な指導を行える教員が増加している。
- ・様々な研修会や研究指定校の授業公開を通して、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業を実践する教員が増加している。

【中学校】

- ・様々な形態のパフォーマンステストの実践（ディベートやライティングなど）が増加している。
- ・授業に占める言語活動の時間の割合が75%以上の教員が昨年度より増加した。

【高等学校】

- ・4技能をバランスよく高める指導について、個々の教員が高い意識を持って指導改善に取り組むようになってきた。
- ・授業における英語使用状況が向上し、パフォーマンステストの実施回数も増加している。

◎課題

【小学校】

- ・学習評価について、各教員が実践できている点や難しさを感じる点を整理し、指導と評価の一体化に基づく実践を更に普及させるための研修の機会が必要である。
- ・今年度採用教員のうち、英語力に関する基準を満たす資格取得者の割合が9.5%であり、2020年度の目標値を10%と設定した。今後徐々に目標値を高め、資格取得者の割合を増加させる必要がある。

【中学校】

- ・「英語能力に関する外部試験を受験した経験のある英語担当教師」の割合は86%であるが、これに対して「求められる英語力を有する英語担当教員の割合」が40%と低く、県としても、外部試験を紹介するのみならず、受検の機会を確保するために、教員の英語力向上を目指した研修を行い、受検対策等を行う必要があると考えられる。
- ・研修会や研究指定校の授業公開を通して、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業実践を普及させる必要がある。

【高等学校】

- ・CAN-DOリスト（学習到達目標）が形がい化し、その達成状況の把握が不十分な学校がある。
- ・求められる英語力を有する生徒の割合が38%であり、目標値に達していない。

◎今後の方向性

【小学校】

- ・研修会等を通して、学習指導要領を踏まえた指導と学習評価について情報提供を行い、各学校での実践を促す。
- ・大学と連携して、教員養成課程の学生の資格取得状況や、本プランにおける目標設定について情報共有を行い、学生の資格取得率の向上につなげる。
- ・研修会等で呼びかけ、教員の資格取得試験受検を促す。

【中学校】

- ・英語力の向上に係る研修会を実施し、教員の資格試験受検の機会を確保する。
- ・研修会等において、新学習指導要領の趣旨を周知し、英語指導力の向上を図る。

【高等学校】

- ・効果的なパフォーマンステストやその評価を研究する必要がある。
- ・評価計画とCAN-DOリストを入れ込んだ年間指導計画を作成し、それに基づく明確なゴールを持って指導する体制を確立させる必要がある。

(3) 研修の体系と内容の具体

令和2年度の取組内容

佐賀県教育委員会では、令和2年度においては以下の取組を行う。これまでの研修や次年度に実施する研修等を踏まえて継続・新規・廃止をPDCAサイクルの中で行うものとし、目標管理書に掲げた目標値の達成に向けて取り組む。

【小学校教員対象研修及び研究指定校事業内容】

○小学校英語伝達講習フォローアップ研修会（日数：1日 受講予定者数－50名）
英語教育推進リーダーによる伝達講習を過去に受講した小学校英語教育中核教員を対象に研修会を実施し、過去に受講した伝達講習の内容を振り返ることにより指導方法の定着を図るとともに、学習指導要領を踏まえた授業実践及び校内研修の取組事例を共有し、指導方法の工夫改善を図る。

（具体的内容）

- (1) 小学校外国語教育の方向性について理解を深めるため、県教育委員会より説明を行う。
- (2) 英語教育推進リーダーを講師とし、実践事例紹介、講義及び演習等を実施する。
- (3) グループ協議等を実施し、授業実践及び校内研修の取組事例の共有を図る。

○小学校英語指導力向上研修（日数：3日 受講予定者数－160名）
英語によるコミュニケーション能力を有し、グローバル化に対応した人材の育成を強化するため、英語教育に携わる者の指導力の向上を図る。

（具体的内容）

- (1) 佐賀大学から講師を招き、英語力向上のための演習等を実施する。
- (2) 英語教育推進リーダーを講師とし、実践事例紹介、講義及び演習等を実施する。
- (3) 県研究指定校等における公開授業参観及び研究協議等を実施する。
- (4) 研修修了後は、自校において、3日間の研修を踏まえた授業実践及び研修内容の共有をする。（校内研修）

○県研究指定校（2校）

新学習指導要領の円滑な実施に向けた実践研究を行い、その成果や授業時数増への対応事例を県全体に普及する。

【中学校教員対象研修及び研究指定校事業内容】

○中学校英語4技能指導力向上研修（日数：1日 受講予定者数－90名）
英語によるコミュニケーション能力を有し、グローバル化に対応した人材の育成を強化するため、英語教育に携わる者の指導力の向上を図ることを目的とする。受講者の英語4技能指導力の向上を図るとともに、研修内容を踏まえた自校での授業実践や研修内容の共有等により、県内すべての中学校及び義務教育学校への研修成果の普及を図る。

本研修は「新しい英語教育」を進めていくための教員研修であるため、受講者には、以下のことが求められるものとする。

- ・英語教育改革の方向性について理解を深めること
- ・実践的な教授法について理解を深めること
- ・教員自身が、次の①～③を体験すること

① タブレットコンピュータを使用したスピーキングテスト

- ② パフォーマンステストの作問と評価
- ③ 生徒の英語4技能を育成するための手法

○中学校英語力向上研修（日数：2日 受講予定者数－60名）

教員の英語力の向上を図ることを目的とする。教員経験10年以下の教員を対象とし、TOEIC IPテストを受検する機会を確保する。受検に向けては、講師を招聘して受検対策を行い、教員の資格取得のための準備方法を知ってもらうとともに、資格取得に向けての意欲の向上を図る。

- ・新学習指導要領の趣旨について理解を深めること
- ・教員の英語力向上の重要性について理解を深めること
- ・受講者は次の①②を体験すること
 - ① 資格試験受検に向けたテスト対策
 - ② TOEIC IPテストの受検

○県研究指定校（2校）

新学習指導要領の円滑な実施に向けた実践研究を行い、その成果を県全体に普及する。研究指定校においては、成果指標の一つとして英語4技能を測る外部検定試験を実施する。

【高校教員対象研修事業内容】

○高等学校英語指導力向上研修（日数：3日 受講予定者数－80名）

英語によるコミュニケーション能力を有し、グローバル化に対応した人材の育成を強化するため、英語教育に携わる者の指導力の向上を図ることを目的とする。

（具体的内容）

- (1) 学習指導要領の趣旨について理解を深める。
- (2) パフォーマンステストの作問と評価について研究する。
- (3) 英語教育推進リーダーを講師とし、公開授業、実践事例紹介及び研究協議等を実施する。

◆上記小中高の研修の評価については、受講者へのアンケート結果を踏まえて行うものとする。

